令和6年4月
地域おこし協力隊着任
(梨栽培の担い手)

梨農家を目指して、
小目町で研修を
しています！

出身地　東京都練馬区

誕生日　2001年7月27日(23歳)

農業に興味を持ったきっかけ

中学3年生のとき、北海道十勝地方の幕別町へ引っ越しました。農業が盛んな地域ということもあり、何度か農業体験をする機会がありました。土の匂いや収穫の達成感に心を動かされ、それ以来、自分の畑を持ち、農業を生業にしたいと考えるようになりました。

梨を選んだ理由

果物の中で梨が一番好きで、以前から自分で栽培してみたいと考えていました。また、梨には早期成園化を可能にする仕立て方があると知り、新規就農者にとって課題となる収入の安定化までの期間を短縮できる点に魅力を感じました。

卒業後のビジョン

卒業後は常陸太田市で梨農家として新規就農することを目指しています。農業者の高齢化による担い手不足が深刻な課題となる中、農業未経験者でも独立できる環境づくりをサポートする農家を目指します。現在、私が地域おこし協力隊として梨農家さんに受け入れをしていただいているため、私も同じように農業を学びたい人を受け入れる体制を整えたいと考えています。協力隊としての受け入れだけでなく、パートや社員としても雇用し、農業の実務を経験してもらいながらそれぞれのペースで新規就農へ移行できる環境を提供できるようにしたいです。加えて、地域の方々と密接に関わりながら、使われていない農地を把握し、梨栽培に適した農地の選定をサポートすることで、新規就農者が安心して農業を始めることが出来る環境づくりに貢献したいと考えています。

Special

今までの活動内容 特集

4月
花粉の採取と授粉

梨の花の摘み取りから始まり、その花から花粉だけを取り出す作業を機械で行いました。
それから、その花粉を使って授粉作業を行いました。授粉は梵天に花粉をつけてひとつひとつ花の柱頭につけていく繊細な作業でした。
驚いたのは、カゴいっぱいに花を摘んでもそこから採れる花粉は数グラム程度ということです。梨農家にとって、花粉はとても貴重なものなんだと作業を通して痛感しました。

5月
1次摘果

梨の1次摘果を実施しました。形が悪い果実や傷、病気の果実を取り除き、果実が均一に大きく育つように間隔を調整します。この作業によって、品質の良い梨の収穫が期待できます。初めての1次摘果は難しさを感じましたが、果実の品質を向上させるために欠かせない作業であると実感しました。
まだ摘果の判断に慣れておらず、迷う場面が多かったです。経験を積み、判断力をさらに高めていきたいです。

6月
摘果

継続して摘果を行いました。
果実の品質を向上させるために、不要な果実を摘み取りました。摘果の際には、適切な間隔を保つことを意識しました。慣れてきて作業効率が上がった実感があり自身の成長を感じられたことが何より嬉しかったです。

7月
仕上げの摘果と網掛け

仕上げの摘果を実施しました。この作業は、果実の大きさを揃えることや、受粉が不十分で形が崩れた果実、虫や病気で損傷した果実を整理するために行います。
中旬には、棚に網を掛けました。ほ場全体を網で囲うことで、雹や台風などの気象災害や害虫から果実や木を守ります。
網を広げる途中でポールの先端に引っかかってしまったり、引っ張りすぎると反対側の網が足りなくなってしまったりとなかなか苦戦しましたが、研修先農家様のパートの皆さんと協力しながらなんとか終えることができ、チームワークの高まりを実感する嬉しい期間でした。

8月~9月
収穫から販売

畑で収穫した梨を選果機を使いサイズごとに分け、発送用に箱詰め、直売所での販売用に袋詰めをしました。
早朝から遅くまでの作業が連日続き、農業の大変さをここではっきりと実感できたような気がします。

10月~11月
肥料まき、畑の手入れ

収穫販売が終わったので、肥料をまいたり生垣の剪定など畑全体の手入れを行いました。古くなった樹皮を削る粗皮削り作業は、ぼろぼろ剥がれるので気持ちよかったです。
畑を良い状態で維持するためには日頃の手入れがとても重要なのだと実感できました。

Instagramアカウントのお知らせ

日々の暮らしや活動をInstagramにて随時更新しています！
ぜひフォローしてください！

KYO.I_HITACHIOTA

常陸太田
梨

常陸太田市で買える！

私の選ぶおすすめ梨！

No.1

幸水

とにかく甘くて美味しい！ジューシーで果肉が柔らかく、シャリシャリとした食感がたまらない！

No.2

豊水

果汁たっぷりでみずみずしく、甘さと酸味のバランスが絶妙！

No.3

あきづき

酸味が少なく甘さしっかり！
果肉も柔らかく何玉でも食べられちゃいます！

その他のおすすめ

二十世紀、なつしずく、甘ひびき